

熊本シティ FM「もっと知りたい熊本～都市政策研究所談話室～」(2014/3/14 放送分)

都市政策研究所 研究員 久保 由美子

## テーマ：「はばタン」

私事で恐縮ですが、ちょうど一ヶ月前、寒いバレンタインデーの日でした。「おなかすいたー」などと思いながら帰宅の途につき、下通りを歩いていた私の目の先に、懐かしい黄色い物体が・・・「はばタン！はばタンやないか！」、年甲斐もなく気づいたときには思いっきりハグしていました。

はばタンは兵庫県の観光大使として活躍するゆるキャラです。見た目はどう見てもヒヨコですが、実は不死鳥“フェニックス”です。

なぜそのはばタンが熊本パルコ前にいたのか？それは「九州新幹線で関西へ行こう！観光キャンペーン」出演、もとい出陣！のためです。ことしのNHK大河ドラマの主人公「黒田官兵衛」が兵庫・播磨地域の姫路出身ということで関西は盛り上がっているらしく、兵庫やその周辺各県のゆるキャラたちが、姫路の観光PRキャラ「かんべえくん」にお供して熊本にやってきたのです。熊本県のPRキャラクター「くまモン」が4年前に九州新幹線で熊本来てねと関西に遠征しましたが、ちょうどその逆。ただし今や「くまモン」が絶大な人気を誇る熊本、関西中のゆるキャラたちが集団でタッグを組んでまでやってこなければならなかったのが少し切ない。

前置きが長くなりましたが、もうお察しのところでしょう。私は兵庫県の出身です。最初の下通りでの出来事に話しをもどしますと、はばタンなんかほぼ知名度0であろう熊本の繁華街で「はばターン」と叫びながら飛びついてきたのがいたので、「はばタン」もお付のスタッフもびっくりしていました。兵庫出身だというと、「それは懐かしいでしょうね」とスタッフの方が2ショットの写真を撮影してくれました。

おそらくあのスタッフの方もご存知だったのでしょうか。そう「はばタン」は兵庫県民にとっては特別な存在。もともと1995年の阪神・淡路大震災からの復興のシンボルとして誕生したからです。公式HPによれば、震災から復興する兵庫の姿、元気に羽ばたくフェニックス（不死鳥）をデザインして、2006年に開催された「のじぎく兵庫国体」のマスコットとして2003年に生まれました。ラジオなのでその姿をお見せできないのが残念ですが、黄色くて、丸っこくて、とてもかわいいです。それで、子供たちの間で大人気になってしまい、国体終了後は晴れて県の観光大使に就任、翌年には兵庫県のマスコットに選ばれて、今でもあちこち飛び回っています。

しかし、これは私の個人的見解なのですが、はばタンが10年以上兵庫で愛され続けている理由は、単に愛らしいからというだけではないと思います。やはり、はばタンは震災から復興するふるさとの象徴だからなのではないかと。そのあどけない容姿とは裏腹に、とてもとても重いものを背負っている異色のゆるキャラゆえでもあると思います。

兵庫県は、ちょっと大げさな言い方をすると「文明の十字路」的なところで、北部の日本海側、中国地方よりの西部、コテコテの関西文化圏である東部と、地域によって県民性にかなり差があります。それぞれの市や町へのアイデンティティーが強くて、「兵庫県民」という意識は低かった。すくなくとも震災前までは。しかし、あの震災は、とてもつらい出来事だったけど、「兵庫県民」という一体感を強める効果はあったのではないかと思います。先月下通りで、はばタンからもらった兵庫県の「食」をテーマにしたパンフレットがあるのですが、但馬の特選和牛から神戸のお洒落なスイーツまでバラエティ豊かというか、雑多というか(笑)。ただ、あの震災がなかったらこのように県単位、オール兵庫で観光を盛り上げようというような動きは生まれなかったかもしれない。震災以来、「兵庫県民」というこれまであまり意識されなかった所属単位が少しずつ存在感を増していったように思います。

阪神・淡路大震災は、ボランティアの意義や、「減災」という言葉が生まれるきっかけとなったなどの側面がクローズアップされてきました。でも住民にとっては地域とのつながりや、人との心の絆など、それまで当たり前すぎて意識していなかった目に見えない何かを確認させたともいえると思います。

熊本の人には、私の目から見れば、兵庫よりだいぶ「県民意識」が強いと感じます。その点で、あの「くまモン」の貢献は大きいですよ。いっそう熊本への愛着心を高めてくれたのではないかと。県民でも市民でもどちらでも良いのですが、自分たちの住んでいる地域を、しかも震災といった出来事を媒介させることなしに、こんなにも強く意識させてくれるキャラクターを持っている熊本の人たちが少しうらやましい気がします。

今月、東日本大震災発生から3年目を迎えました。そのとき神奈川に住んでいた私は、直撃は免れたとはいえ、またもひどい揺れを経験しました。当然、今住んでいる熊本も自然災害とは無縁ではありません。大災害を目の当たりにすると、人は自分の住む地域のことを否が応でも意識するようになると思います。仮に熊本で東北でのような大きな震災が起きたら？この地域へのつながりを、自分はどのように感じるだろうか？家族や近隣の人に対してどんな態度がとれるだろうか？災害への物的備えはもちろん大切ですが、このような「心の備え」についても考えておく必要があるのかもしれない。もしかしたらはばタンは私にそれを教えにはるばる来てくれたのかな、なんて思いながらすごしたこの一ヶ月でした。